



株式会社クロス・マーケティンググループ

2025年6月期 第3四半期決算補足資料

2025年5月15日

CONTENTS

- 1 2025年6月期 第3四半期決算概要**
- 2 トピックス**
- 3 2025年6月期 業績予想及び配当計画**
- 4 参考データ**

Summary

1

- **3Q累計 売上高222.7億円(15%増)、営業利益23.7億円(40%増)**
- **過去最高売上高を更新。全てのセグメントで増益**

Summary

2

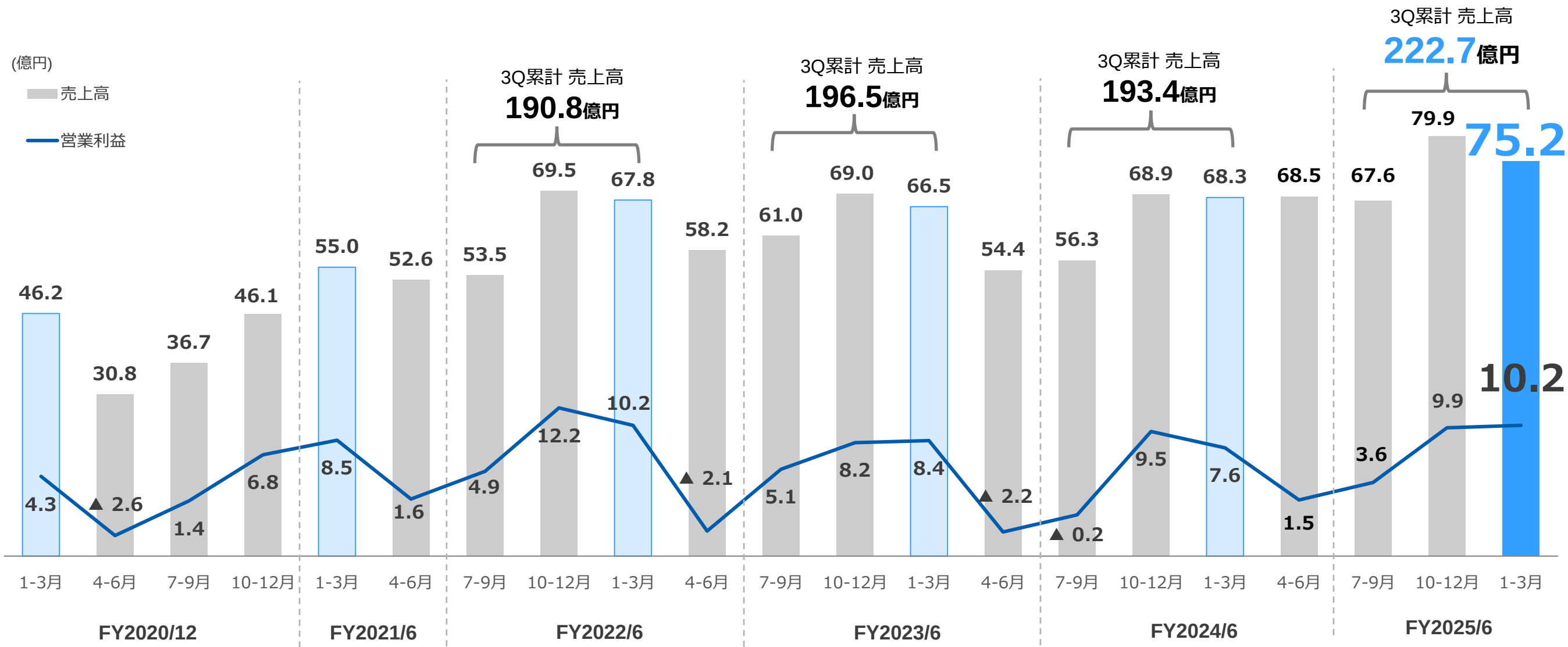
- **デジタルマーケティング**：既存事業・新規連結とも好調。セグメント利益28%増
- **データマーケティング**：国内が好調継続、海外は回復。セグメント利益40%増
- **インサイト**：一部領域苦戦で減収も、利益率を改善。セグメント利益11%増

Summary

3

- **25/6期 通期業績計画に変更なし**
- **売上高300億円、営業利益30億円を目指す**

25/6期3Q累計として、過去最高の売上高を更新
季節性はあるものの、収益基盤が着実に拡大



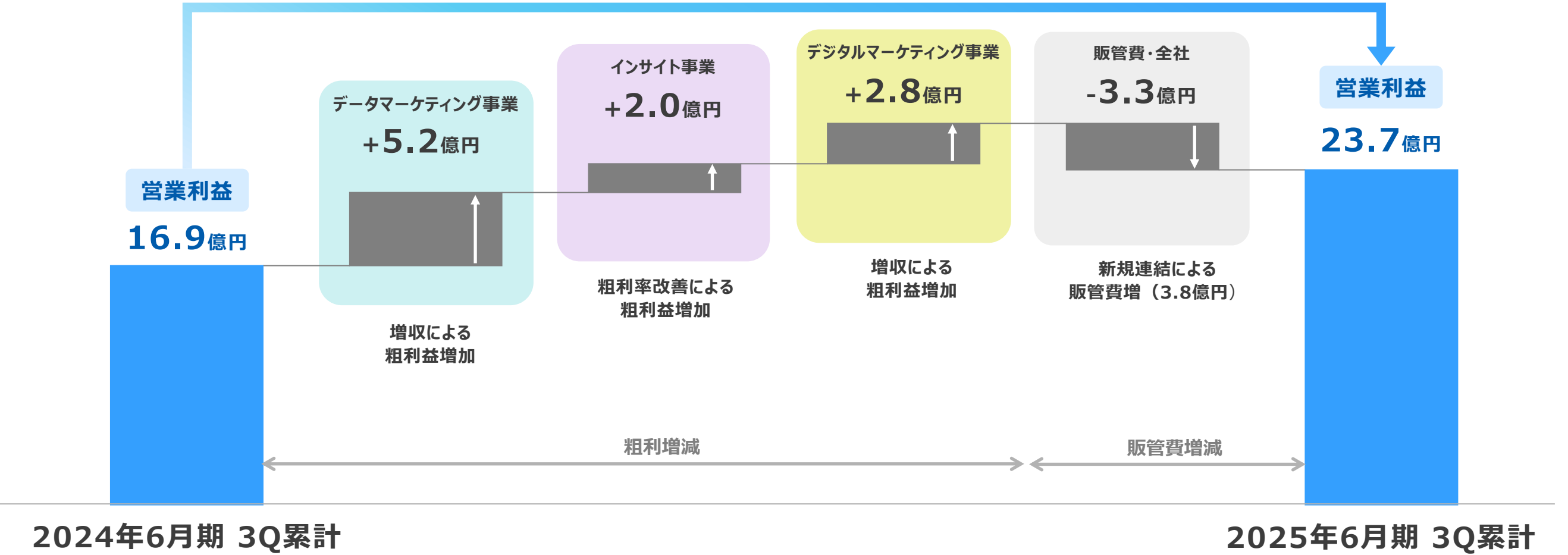
1 2025年6月期 第3四半期決算概要

デジタルマーケティング、データマーケティングが増収・増益をけん引
増収と販管費の効率化により、営業利益は大幅増

	24/6期	25/6期	
		3Q累計 (7-3月)	YoY 成長率
(億円)			
売上高	193.4	222.7	+15%
デジタルマーケティング事業	77.2	94.4	+22%
データマーケティング事業	65.2	79.6	+22%
インサイト事業	51.0	48.8	-4%
売上総利益 (売上総利益率)	77.6 (40.1%)	87.6 (39.3%)	+13% (-0.8pt)
販管費 (売上高販管費比率)	60.7 (31.4%)	63.9 (28.7%)	+5% (-2.7pt)
営業利益 (営業利益率)	16.9 (8.7%)	23.7 (10.6%)	+40% (+1.9pt)

事業規模拡大による増収効果や粗利率改善により、全てのセグメントで粗利益が増加
新規連結による販管費増を吸収、営業利益が拡大

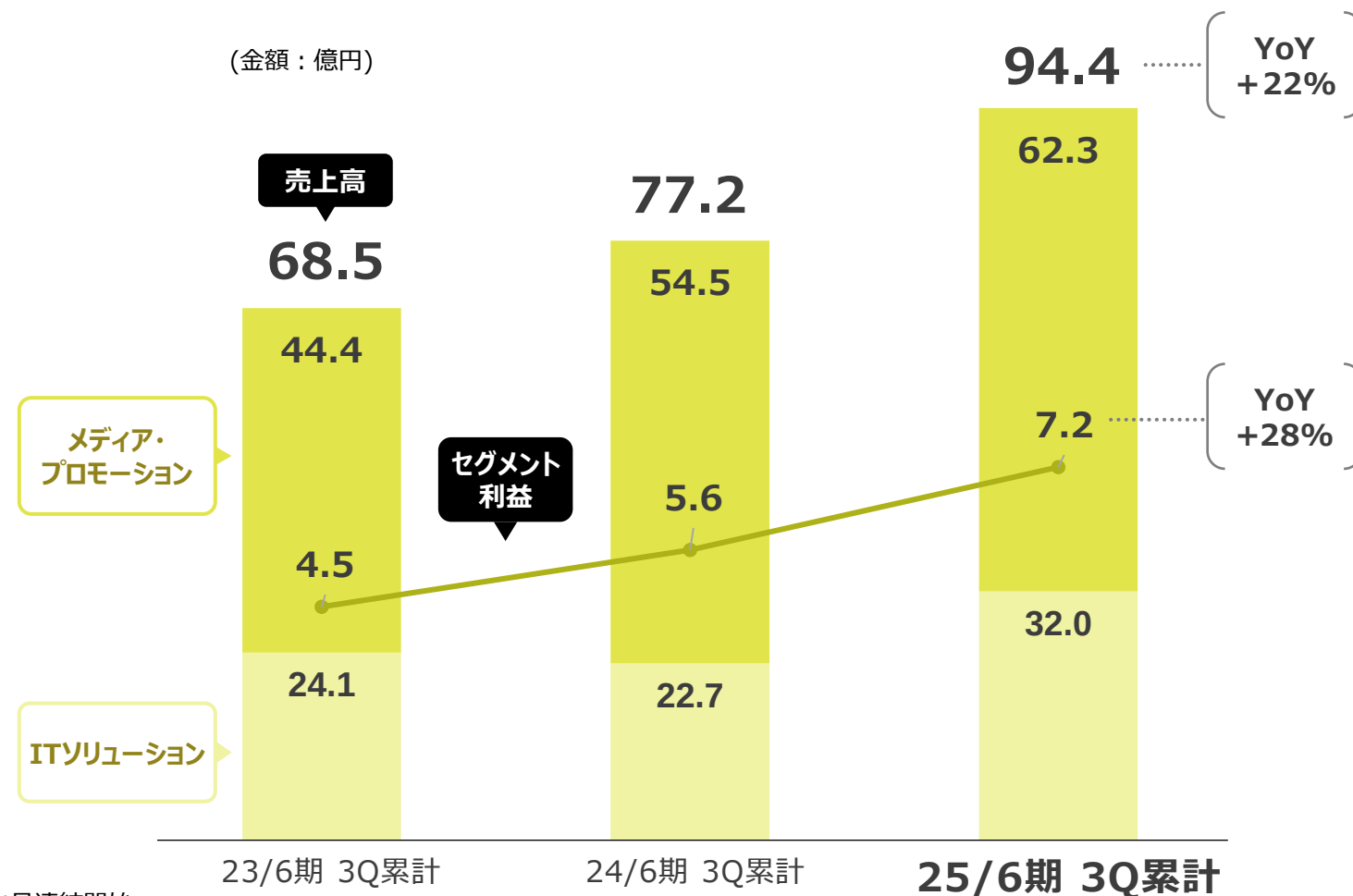
営業利益：6.8億円増



売上高94.4億円(22%増)、セグメント利益7.2億円(28%増)
インフルエンサーマーケティングなどの高成長領域けん引、新規連結効果も加わる

ハイライト

- ・メディア・プロモーション領域：14%増収。インフルエンサーマーケティングやIPプロモーションなどの高成長領域に加え、パスクリエ*が貢献
- ・ITソリューション領域：41%増収。新規連結のCRI*が大きく貢献
- ・セグメント利益が28%増：増収に伴う粗利増加で、新規連結による販管費増を吸収



*(株)パスクリエ：主にEC領域のサードパーティロジスティクス等を行う。2024年5月連結開始

(株)CRI（クリエイティブインスティテュート）：ディレクター・エンジニアの派遣、広告制作等を行う。2024年4月連結開始

売上高79.6億円(22%増)、セグメント利益25.0億円(40%増) 国内オンラインリサーチ好調継続、海外が大幅回復

ハイライト

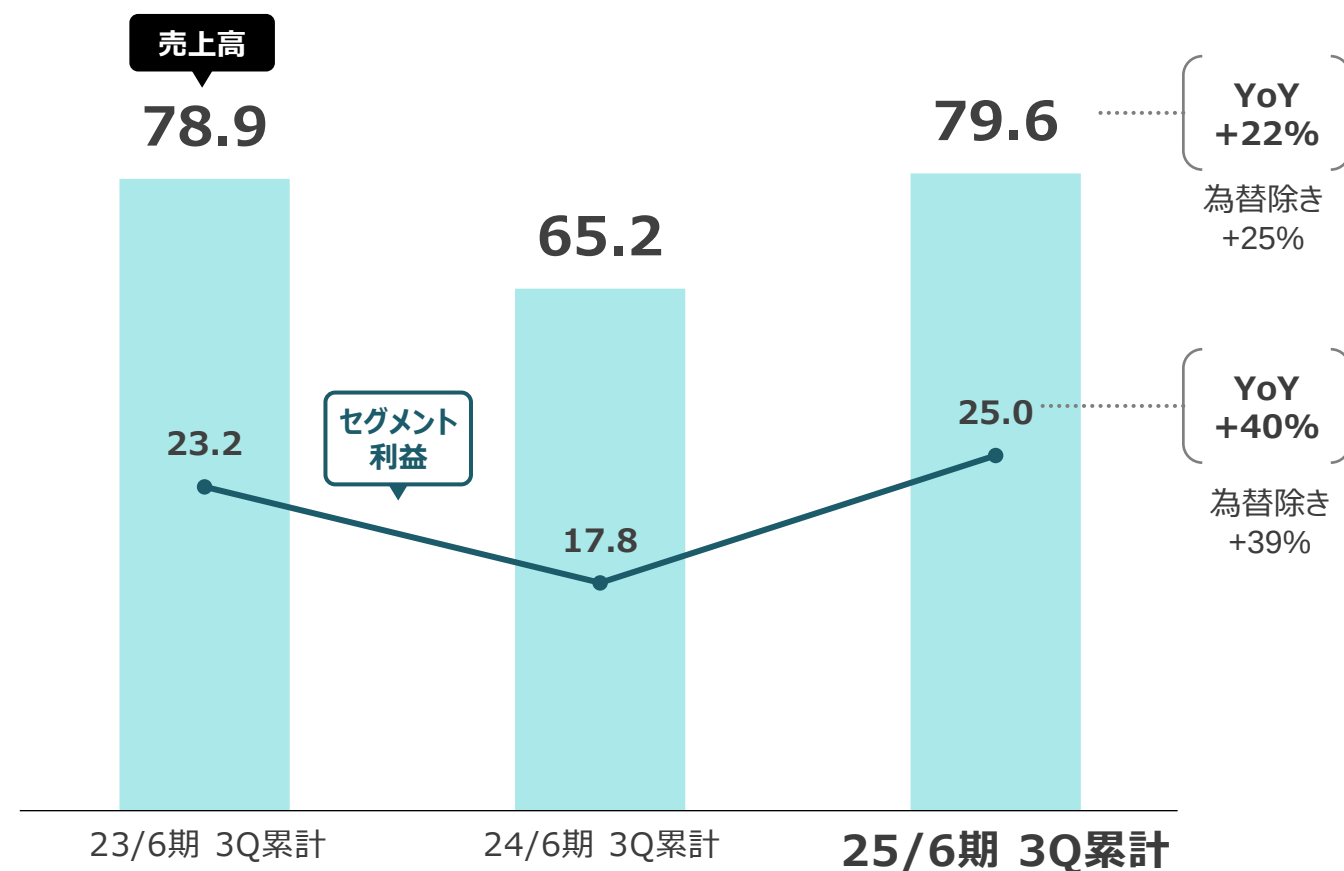
- ・国内はyoy+8%。オンラインリサーチが好調。業種別では通信・エンタメ・自動車・広告代理店等がけん引
- ・海外はyoy+66%。主力の北米が大幅回復
- ・増収に伴う粗利益増加によりセグメント利益はyoy+40%と伸長

為替影響

- ・為替変動^{*1}で売上－4.2億円、利益影響は軽微

^{*1} 2024年6月期3Qの実績為替レートとの比較

(金額：億円)



売上高48.8億円(4%減)、セグメント利益8.0億円(11%増) 国内外で一部領域苦戦も、粗利率改善と販管費効率化で増益を確保

ハイライト

- ・調査単価アップ（値引き抑制含む）等による原価低減で、粗利率改善

ローライト

- ・国内が3%減収。医療・ヘルスケア領域や、CLT^{*1}などオフラインリサーチの一部が苦戦
- ・海外は9%減収。英国回復もインド^ネシア伸び悩み

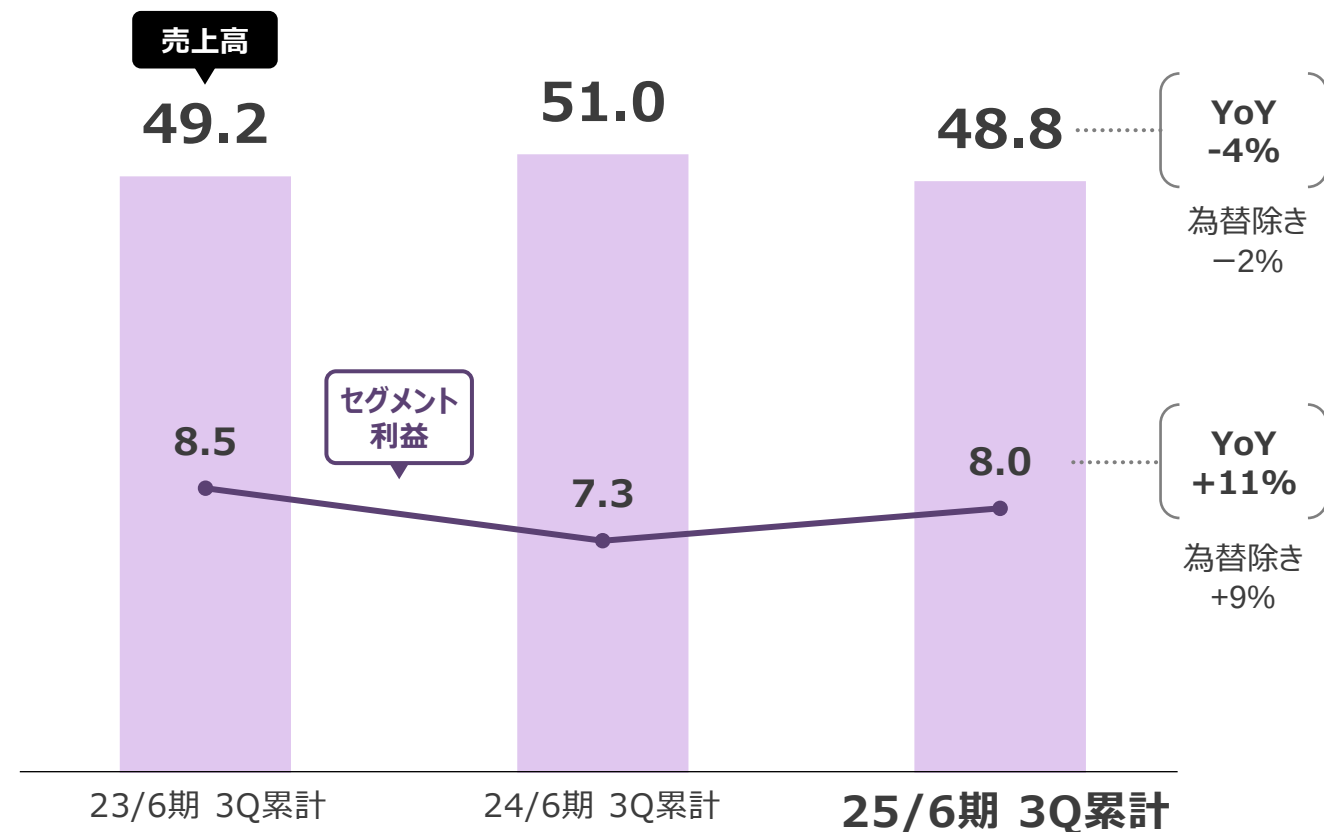
為替影響

- ・為替変動^{*2}で売上－2.0億円、利益影響は軽微

^{*1} Central Location Test（会場調査）の略。対象者を会場に集めて、アンケートに回答してもらう調査手法

^{*2} 2024年6月期3Qの実績為替レートとの比較

(金額：億円)



海外事業合計で33%増収 北米・英国が大きく回復

(金額：億円)

ハイライト

- ・北米、英国の回復持続。調査会社、情報通信、食品などが伸長

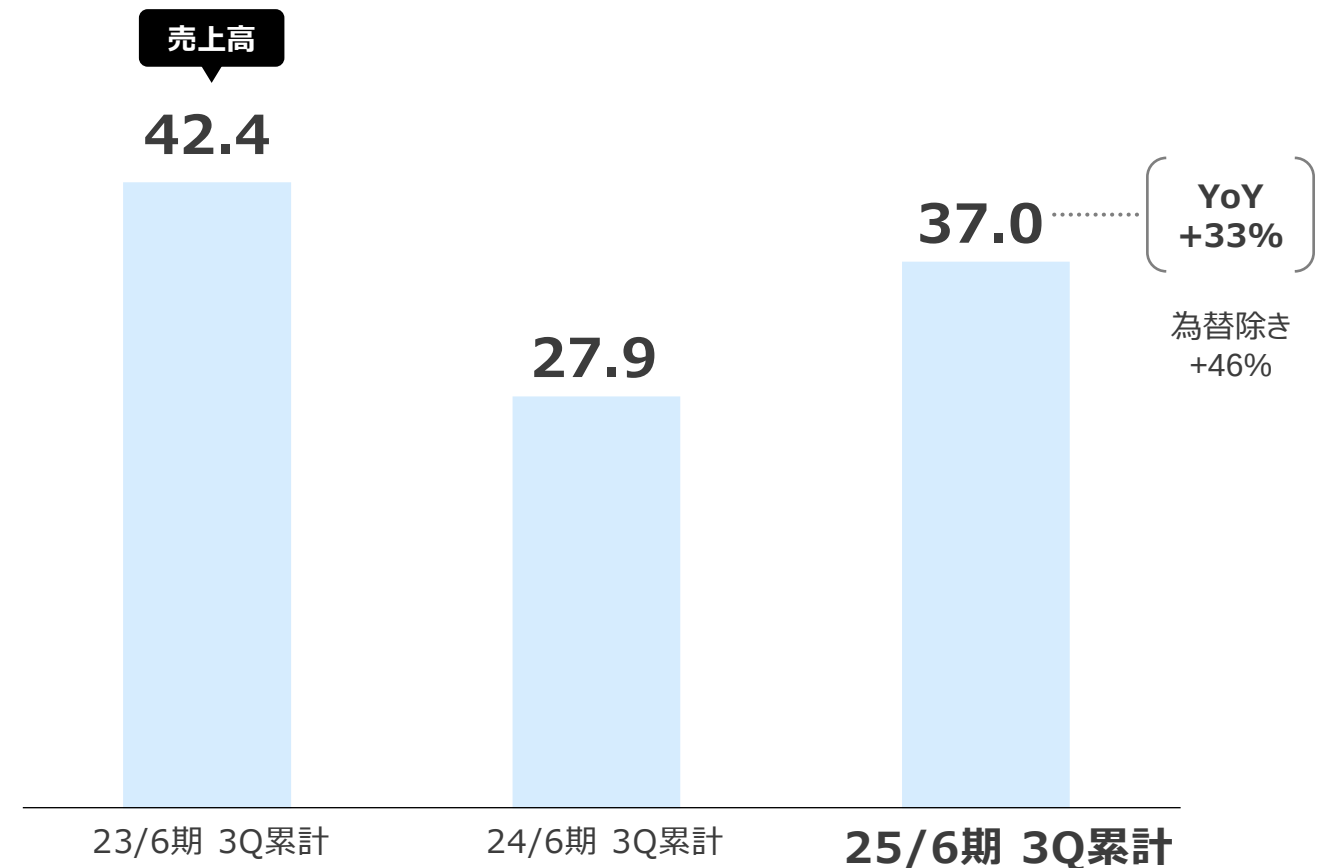
ローライト

- ・前年大型案件の影響でインドネシアが伸び悩みも、4Qはプラスの見込み

為替影響

- ・為替影響*1は海外合計で売上高－6.2億円

*1 2024年6月期3Qの実績為替レートとの比較



2 トピックス

AIチャットボットを利用した マーケティングリサーチツール「Light Depth」を提供開始

概要

連結子会社クロス・マーケティングは、ウェブアンケートの記入式自由回答において、AIチャットボットが会話形式で回答者と対話することで、深い洞察を効率的に収集し要約するインタビュー型ウェブアンケートサービス「Light Depth（ライトデプス）」の提供を開始

インタビュー型ウェブアンケートサービス「Light Depth」とは

1.自然な会話を通じて回答者の本音を聞き出す

簡単な指示文をもとにして、AIの挙動を決定するプロンプトを自動的に生成

* 特許出願済 特願2025-024691

2.回答に応じて柔軟に質問を変更し、必要な情報を確実に収集

AIチャットボットが、チャットインタビューに入る前のアンケート回答を回答者別に学習し、回答者の特徴を細やかに理解したインタビューが可能

3.大規模なサンプル数でも、個々のチャット回答を整理・要約

AIが回答者とのチャットのやり取りを分析し、重要なポイントを抽出しつつ、回答結果を整理し要約することで、チャットインタビューの結果をよりわかりやすく提示

* 特許出願済 特願2025-024692



実践女子大学との産学連携の取り組み

概要

実践女子大学 生活科学部現代生活学科と連携し、PBL（課題解決型授業）※の取り組みを実施

※PBL（Project(Problem) Based Learning）とは、文部科学省が推進するアクティブラーニングの一つで、正解のない課題を通して問題解決へのアプローチ方法を身につけることなどがその目的

取り組み内容

本取り組みは、2024 年度後期の現代生活学科の必修科目「ビジネスプランニング」として学生 55 名が対象。

連結子会社トキオ・ゲッツが参加し、**「自社 IP の開発にあたり、女子大生に好まれそうな新しいキャラクターとそれを活用した商品展開」をテーマに実施**。学生は経営学の基礎などを学んだ後、グループワーク等を経て、テーマに沿ったプレゼンテーションを 2025 年 1 月に実施。プレゼン後の学生へのフィードバックを含め、ビジネス視点に関する学びを提供。



実践女子大学

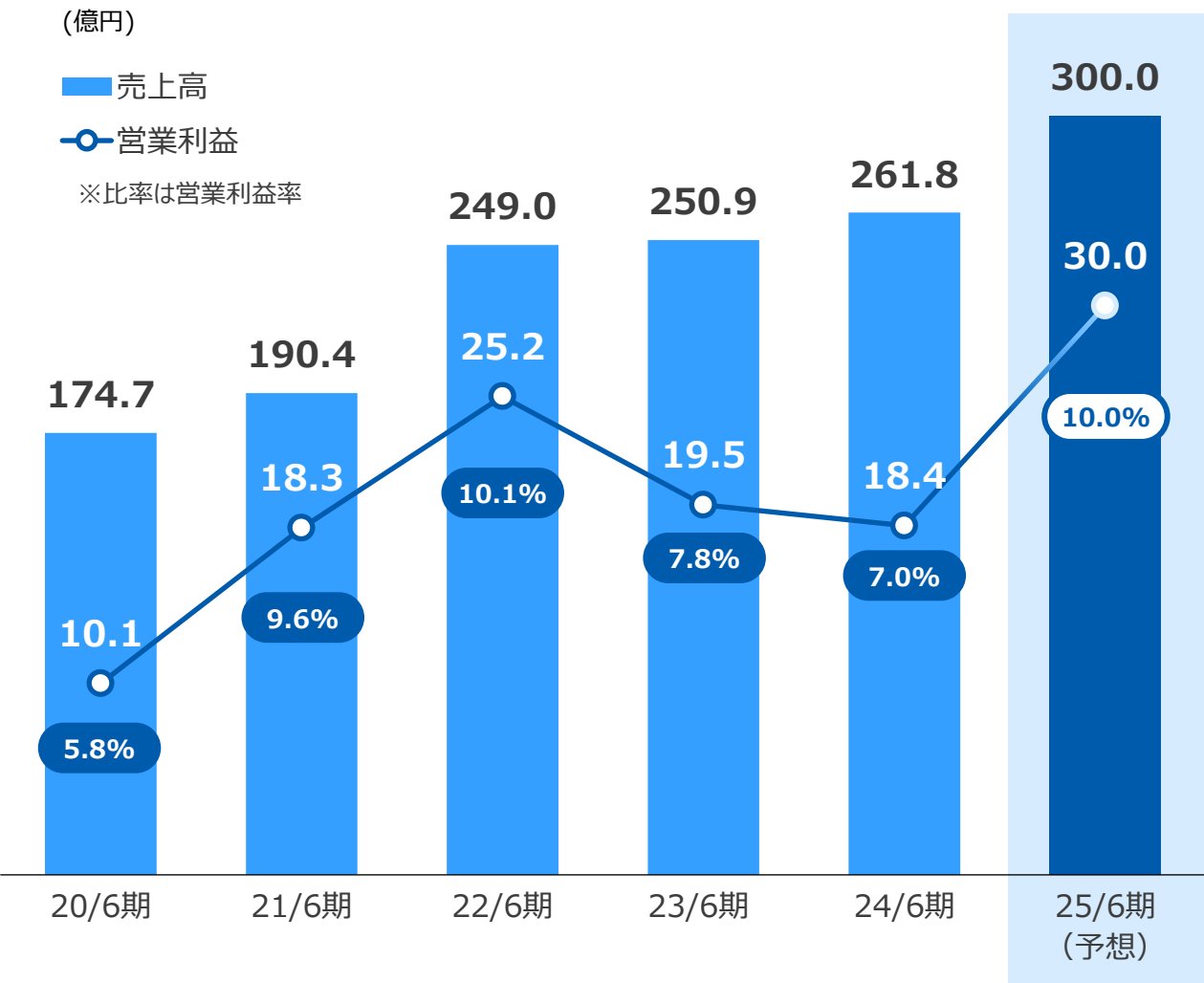
TOKYO GETS

 Cross Marketing Group



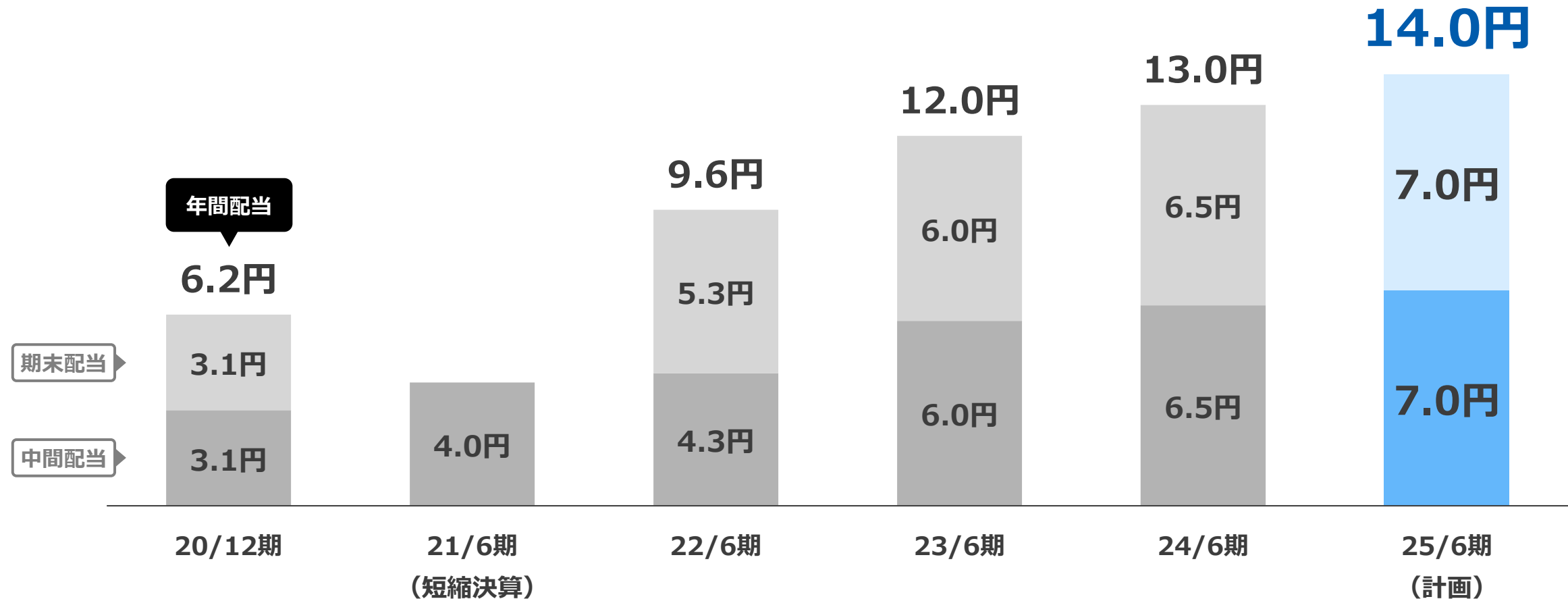
3 2025年6月期 業績予想及び配当計画

中期経営計画・最終年度の業績目標に変更無し
売上高300億円(15%増)・営業利益30億円(63%増)を目指す



	24/6期実績	25/6期予想	YoY
売上高	261.8	300.0	+15%
デジタルマーケティング	106.6	130.0	+22%
データマーケティング	88.1	100.0	+14%
インサイト	67.1	70.0	+4%
営業利益	18.4	30.0	+63%
経常利益	19.1	29.0	+52%
親会社株主に帰属する当期純利益	11.9	18.0	+51%
EPS	62.1	93.6	+51%
一株当たり配当(円)	13.0	14.0	+1.0

配当方針：配当性向15%前後を目安とした継続的な増配
 25/6期通期では**14.0円**（中間7.0円、期末7.0円）



4

参考データ

エクセル形式の **Fact Sheet** は当社IRサイト(www.cm-group.co.jp/ir)内の[こちら](#)に掲載しております。
どうぞご利用ください。

(億円)	24/6期 3Q累計	25/6期 3Q累計	前年同期比 増減率
売上高	193.4	222.7	+15%
売上総利益	77.6	87.6	+13%
(売上総利益率)	(40.1%)	(39.3%)	(-0.8pt)
販売費 及び 一般管理費	60.7	63.9	+5%
(売上高販管費比率)	(31.4%)	(28.7%)	(-2.7pt)
営業利益	16.9	23.7	+40%
(営業利益率)	(8.7%)	(10.6%)	(+1.9pt)
経常利益	16.8	22.8	+35%
特別損益	-0.0	-0.1	—
法人税等	7.0	9.2	+33%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9.8	13.4	+36%

1 売上高が大幅増
国内外の消費者調査、デジタルマーケティングが好調

2 売上総利益が増加
増収に伴う増加

3 販管費を効率化
費用効率化により、売上高販管費比率が低下

	(億円)	2024年6月末	2025年3月末	増減	
流動資産		127.6	128.3	+0.7	
現金及び預金		73.8	63.1	-10.7	① 現預金は63.1億円 借入金返済等により期末比で減少
受取手形及び売掛金		38.5	46.2	+7.7	
その他		15.3	19.0	+3.7	
固定資産		38.7	37.4	-1.4	
のれん		12.3	10.4	-1.9	② のれん残高は減少 連結子会社各社ののれん償却が進展
その他		26.4	27.0	+0.6	
総資産		166.3	165.6	-0.7	
流動負債		58.7	57.8	-0.9	
買掛金		12.3	15.0	+2.7	
短期借入金※		16.3	15.0	-1.3	③ 借入金が減少 借入金返済により短期及び長期借入金が減少
その他		30.1	27.8	-2.3	
固定負債		36.8	29.6	-7.2	
長期借入金		33.5	25.9	-7.6	③
その他		3.3	3.6	+0.4	
純資産		70.8	78.3	+7.5	④ 自己資本比率は47.3% 前期末比で上昇、健全な水準を確保
自己資本比率		42.6%	47.3%	+4.7pt	

※一年以内返済の長期借入金含む

本資料に関するご注意

本資料は、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘するものではありません。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますのでご了承ください。

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社 クロス・マーケティンググループ IR室
Mail : ir@cm-group.co.jp

Cross Marketing Group Inc.
<https://www.cm-group.co.jp>